

平成 2 1 年度

《第 2 回特別奨学生試験》

国 語

時間 4 0 分， 1 0 0 点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

会社に入ってきた新入社員や二、三年目の社員が、上司から叱られると、すぐに会社を辞めていくという話をよく聞く。もちろん、上司の叱り方の問題もあるが、若い世代の人の社会的なストレスに対する耐性が弱くなってきているのも、事実だろう。これは学校教育の問題も関連していると、私は見ている。今のビジネス社会は昔以上に競争が激しくなっていて、ストレスフルになっている。優秀な人はどんどん出世でき、給料も上がっていくが、成果を上げられない人は給料を減らされたり、閑職に追いやられたりして会社での居心地は悪くなっていく。こうした競争社会の中で戦っていくのは、生やさしいことではない。一方、一般の学校の教育現場はどうなっているかというと、昔と違って、ほとんど競争をさせない状況になっている。テストの成績を張り出したり、発表したりすることはまず行われていない。勉強で競争することが悪いことであるかのようには扱われてしまっている。運動も同じである。昔のように「逆上がりができる」とヒーローであり、「逆上がりができない」とバカにされる」といったこともなくなっている。私は後者のタイプだったので、「バカにされて悔しい」という気持ちはよくわかる。現在では運動会でも、足の速い子は足の速い子だけのグループ、足の遅い子は足の遅い子だけのグループで走らされたりする。あるいは、ゴールするときは手をつないでゴールするようなことさえあるという。昔は、勉強はできなくても運動ができる子は、褒められたものだが、今は運動ができて褒められない。何か一つ特徴を身につけていれば認めてもらえるという学校社会ではなく、今のは現実である。学芸会でも、みんなが主役になれるようにと、桃太郎役の六人も出てくる劇が行われている。主役が一人だと「えこひいきにつながる」ということで、次々と桃太郎役の子が交代して関しても偽装が増えて、せつかくの努力が結局六人の子が桃太郎をやるような劇が行われているのだ。勉強のできない子がバカにされることはなくなり、運動のできない子相手にされないこともなくなり、クラスの人気者を学校の側がノミネートすることもなくなった。このような世界で教育されていると、「悔しさ」を感じることもなくなり、落ち込んだ気持ちに対する耐性や感情のコントロール能力もなかなか身につかない。昔は、勉強で負けて悔しい思いをする子、逆上がりができないで悔し涙を流す子、学芸会で「その他大勢」になって悔しい思いをする子、そういう子たちが自分の感情をコントロールすることを覚えながら、他の子よりもできるものを探そうと努力をしたり、見返してやろうと負けたもので頑張ったり、個性を磨いたりしていくことが可能だった。そのような機会が今は奪われてしまっている。そして、昔より格段に厳しくなったビジネス社会に出ていくのである。これでは、新入社員や若手社員が会社の状況に耐えられないのも無理はない。彼ら、彼女たちは、弱いから耐えられないのではなく、適切なトレーニングの機会を与えられてこなかった世代の人たちは、自ら感情コントロールのトレーニングをしていくしかない。

☆作問の都合上、改編した箇所があります。(和田秀樹『感情暴走社会』より)

語注

- ・耐性：細菌や生物が薬品などに抵抗する力。ここでは、さまざまなストレスに抵抗する力のことを指す。
- ・ストレス・ストレスフル：外からの刺激によって体内に発生する正常でない反応・それらが目一杯な状態。
- ・閑職：あまり仕事のないひまな職務。あまり重要視されない職。
- ・ノミネート：指名すること。候補者に推薦すること。

《設問》

この文章は、「序章」の一部です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える「新入社員の早期退社を食い止める方法」とはどのようなものかを八〇字程度で述べなさい。(ただし、指定された語句はどういう順序で用いてもかまわないものとする)

・競争 ・感情コントロール ・悔しさ ・落ち込んだ気持ち ・教育現場

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

「こまでのお話

きつねのぬいぐるみの「こん」は、おばあちゃんにたのまれて、赤ちゃんのお守りをしにやってきました。赤ちゃんの名前は「あき」という女の子でした。こんは、あきが成長するのを見守り続け、ふたりはとても仲のよいともだちになりました。そんなある日、こんのうでがほつれてしまい、おばあちゃんに直してもらうことに……

こんとあきは、えきをやってきました。

「この きしやに のるんだ。あきちゃん、ぼくに ついてきて」

こんが、さきに きしやにのりました。

せきに つくまえに、きしやが うごきだしました。

「そこが ぼくたちのせきだ」

こんは、あいている せきに ぴよんと すわって、

「あきちゃん、まどのほうに すわっていいよ。もう、ずうっと すわっていれば だいじょうぶ。しぜんにつくからね」といいました。

「ずうっと すわってて おなかやすいたら どうする？」あきが ききました。

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。つぎのえきに おいしいおべんとうを うっているからね」

こんは、つぎのえきにつくと、おべんとうを かいにいきました。

「わたしも いく」

あきは、しんばいになって いいましたが、こんは、

「あきちゃんは まってて。5ふんかんでいしやだから、だいじょうぶ」とはしつていきました。

おべんとうやさんのまえには、もう、ひとが たくさんならんでいました。

「あは、すこし、しんばいになりました。

「あと、3ふんしかないぞ」

こんが なかなか かえってこないの、あきは、むねがどきどきしくした。

とうとう ドアがしまつて、きしやが うごきだしてしまいました。

「きつねくんなら、むこうの ドアのところ、みかけましたよ」

いそいで いってみると、ドアのところ、こんが、おべんとうを もって たつていました。

「こんは、あきのかおをみると、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ。おべんとう、まだ あつたかいよ」といいました。

「こんは、あわてて とびのつたとき、しつぽを ドアにはさまれてしまったのです。」

こんとあきが、おべんとうを たべていると、しゃしゅうさんが やつてきて

「おや おや、どうしたんです。こんなところで！」とびっくりしました。

「べつに、きつぷを もっていないわけじゃないんです。ちよつと しつぽを はされたもんですから」

「こんは、ポケットから きつぷを だしました。やつと、つぎのえきで、ドアが ひらきました。でも、こんのしつぽは、まんなが、ぺちゃんこになってしまいました。」

せきに もどると、しゃしゅうさんがきて こんのしつぽに ほうたいを まいてくれました。

「もう、ずうっと すわっていきましょう」

「こんとあきは、ずうっと すわって、まどのそとをみていました。ずうーつと ずうーつと、すわっていると、とうとう、さきゅうえきに つきました。」

「こつちが おばあちゃんち、そつちが さきゅう」と、こんが おしえました。

「ちよつとだけ、さきゅうに いってみても いい？」あきが ききました。

「うん、すなに、ちよつと あしあとを つけるだけなら」あきは、さきゅうを みたのは、はじめてでした。

すると とつぜん、まつばやしのはなから、すたすたすたつと いぬがでてきて、くんくんと こんのにおいをかぎました。

「あきちゃん、こわがらなくても だいじょうぶ。ぼくがついてるからね」こんが、いったとたん

「ぼく！」いぬは こんをくわえて、たつたつたとすなやまを のぼっていつてしまいました。

あきは、いぬのあとを おいかけて、すなのやまを のぼっていきました。

やつと、てっぺんまで のぼると、うみがみえて、なみのおとがしました。

「こーん！」あきは よんでみましたが、

「あきは、いぬのあしあとを みました。そして、すなのなかに、なにか うまっているのを みつけました。」

あきは、いそいで すなを ほりました。

すなのなかから、こんがあらわれました。

あきは、こんを だきあげて、「こん、だいじょうぶ？」と、ききました。こんは、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と、ちいさなこえでいいました。

あきは、こんをおぶって、すなのやまを おりました。だんだん ぐらくなつてきました。

（林 明子『こんとあき』より）
※作問の都合上、省略・改編した箇所があります。

《設問》

問一 この文章から読み取れる「こん」の性格を三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 線部1「あきは、しんばいになって」とありますが、あきにとってこんは、どのような存在だと考えられますか。三十字程度で具体的に説明しなさい。

問三 線部2「ちよつとだけ、さきゅうにいつてみてもいい」とありますが、このときのあきの気持ちを三十字程度で具体的に説明しなさい。また、このような気持ちを漢字三文字でなんと言いますか。

問四 線部3「ぼくがついているからね」とありますが、このときのこんの気持ちを三十字程度で具体的に説明しなさい。

問五 線部4「あきは、こんをおぶって、すなのやまをおりました」とありますが、このときのあきの気持ちを三十字程度で具体的に説明しなさい。

※すべての問の制限字数には句読点・符号を含むものとする。